古文単語 本文で意味を決める ③

高校／意味が3つの語。同じ番号が重なることも

名前 _____

日付 _____

各組（1〜3）の――線の語の意味を、見出しの横の「意味の一覧」から選び、右の「番号」欄に番号を書きなさい。
その意味に決めた手がかりを、――線の語以外の本文から、右の「手がかり」欄に書き抜きなさい（10字までを目安に）。
同じ組の中で、同じ番号が2回出ることがあります。同じ組の別の本文の答えにつられず、本文ごとに決めましょう。

1 かしこし （形容詞ク活用）

意味の一覧 ① 恐れ多い ② 優れている ③ 非常に

ア ……世を貪らざらむぞいみじかるべき。昔よりかしこき人の富めるは稀なり。（徒然草・第十八段）

番号 ／ 手がかり

イ いでや、この世に生れては、願はしかるべきことこそ多かめれ。帝の御位はいともかしこし。（徒然草・第一段）

番号 ／ 手がかり

ウ 男女きらはず呼び集へて、いとかしこくあそぶ。（竹取物語）

番号 ／ 手がかり

2 しのぶ （動詞）

意味の一覧 ① 我慢する ② 人目を避ける ③ 思い慕う

ア ……夕の嵐、夜の月のみぞ、言問ふよすがなりける。思ひ出でてしのぶ人あらむほどこそあらめ。（徒然草・第三十段）

番号 ／ 手がかり

イ ある人とぶらひたまはむとて、夕月夜のおぼつかなき程に、しのびて尋ねおはしたるに、……（徒然草・第百四段）

番号 ／ 手がかり

ウ 下りて拝したてまつりたまふさまに、皆人涙落としたまふ。帝はた、ましてえしのびあへたまはず、思し紛るる折もありつる昔のこと、とりかへし悲しく思さる。（源氏物語・桐壺）

番号 ／ 手がかり

エ 皇子「いとしのびて。」とのたまはせて、人もあまた率ておはしまさず、近う仕うまつる限して出でたまひぬ。（竹取物語）

番号 ／ 手がかり

3 まどふ （動詞ハ行四段活用）

意味の一覧 ① あわてる ② 迷う ③ ひどく（〜する）

ア 晦日の夜いたう暗きに、松どもともして、夜半すぐるまで、人の門叩き走りありきて、何事にかあらむ、ことごとしくののしりて、足を空にまどふが、……（徒然草・第十九段）

番号 ／ 手がかり

イ 鼻の中ふたがりて、息も出でがたかりければ、さまざまにつくろひけれど、煩はしくなりて、目眉額なども腫れまどひて、うち覆ひければ、……（徒然草・第四十二段）

番号 ／ 手がかり

ウ 露霜にしほたれて、所さだめずまどひ歩き、親のいさめ、世のそしりをつつむに、心のいとまなく、……（徒然草・第三段）

番号 ／ 手がかり

いちごドリル プリント

つづきの無料プリント
「古文単語プリント」のプリント一覧がひらきます

古文単語 本文で意味を決める ③【こたえ】

高校／意味が3つの語。同じ番号が重なることも

名前 ＿＿＿＿＿＿＿＿

日付 ＿＿＿＿＿＿＿＿

赤い字がこたえです。手がかりは例で、同じ理由を示す別の語句でも正解にします。
「→」のあとは、その意味に決まる理由です。番号だけ合って手がかりが言えないときは、理由を確かめましょう。

1 かしこし （形容詞ク活用） 意味の一覧 ① 恐れ多い ② 優れている ③ 非常に

ア ……世を貪らざらむぞいみじかるべき。昔よりかしこき人の富めるは稀なり。（徒然草・第十八段）

→「かしこき」が「人」を修飾し、人の資質を言う＝賢い・優れている

番号 ② 手がかり **人の富める**

イ いでや、この世に生れては、願はしかるべきことこそ多かめれ。帝の御位はいともかしこし。（徒然草・第一段）

→ 帝の御位への敬意＝恐れ多い

番号 ① 手がかり **帝の御位**

ウ 男女きらはず呼び集へて、いとかしこくあそぶ。（竹取物語）

→ 連用形で動詞を修飾する副詞用法＝程度が非常に

番号 ③ 手がかり **あそぶ**

2 しのぶ （動詞） 意味の一覧 ① 我慢する ② 人目を避ける ③ 思い慕う

ア ……夕の嵐、夜の月のみぞ、言問ふよすがなりける。思ひ出でてしのぶ人あらむほどこそあらめ。（徒然草・第三十段）

→「思ひ出でて」と続く＝思い出してなつかしむ＝思い慕う

番号 ③ 手がかり **思ひ出でて**

イ ある人とぶらひたまはむとて、夕月夜のおぼつかなき程に、しのびて尋ねおはしたるに、……（徒然草・第百四段）

→ 暗い夕月夜に人を訪ねる＝「しのびて」は人目を避けてこっそり

番号 ② 手がかり **夕月夜**

ウ 下りて拝したてまつりたまふさまに、皆人涙落としたまふ。帝はた、ましてえしのびあへたまはず、思し紛るる折もありつる昔のこと、とりかへし悲しく思さる。（源氏物語・桐壺）

→「え～ず」と打消を伴う＝こらえきれない

番号 ① 手がかり **涙落としたまふ**

エ 皇子「いとしのびて。」とのたまはせて、人もあまた率ておはしまさず、近う仕うまつる限して出でたまひぬ。（竹取物語）

→ 供の人を多く連れず出かける＝人目を避けてこっそり

番号 ② 手がかり **人もあまた率て**

3 まどふ （動詞ハ行四段活用） 意味の一覧 ① あわてる ② 迷う ③ ひどく（～する）

ア 晦日の夜いたう暗きに、松どもともして、夜半すぐるまで、人の門叩き走りありきて、何事にかあらむ、ことごとしくののしりて、足を空にまどふが、……（徒然草・第十九段）

→「足を空に」＝落ち着きなく、あわてふためく

番号 ① 手がかり **足を空に**

イ 鼻の中ふたがりて、息も出でがたかりければ、さまざまにつくろひけれど、煩はしくなりて、目眉額なども腫れまどひて、うち覆ひければ、……（徒然草・第四十二段）

→ 他の動詞の連用形に付き、程度のはなはだしさを添える補助的用法

番号 ③ 手がかり **腫れ**

ウ 露霜にしほたれて、所さだめずまどひ歩き、親のいさめ、世のそしりをつつむに、心のいとまなく、……（徒然草・第三段）

→「所さだめず～歩き」＝行き先も定まらずさまよう

番号 ② 手がかり **所さだめず**